

二〇一九年八月一日(参加者二名)

溶接の火花炎暑へ撒き散らし	やよい
坂の果て揺らぐかと思ゆ空炎暑	隆松
さるすべり白々とある夕間暮	よし子
街炎暑なれど稚児らの銚凜と	せいじ
人影のなき校庭に百日紅	満天
迂回路も陸橋も嫌街炎暑	うつぎ
百日紅根づく被爆の石垣に	なつき
大き洞もつ禅林の百日紅	うつぎ
谷川に足冷やしゐる炎暑かな	よう子
炎暑来てラデオ体操老い元気	もとこ
下山して街の炎暑を纏ひけり	やよい
仁王立つ古刹の門の百日紅	董雨
球歪む炎暑のテニスコートかな	素秀
夫逝きし日々思ひ出す炎暑かな	はく子

復員の父の手植えの百日紅 明日香

寺炎暑怒髪逆立つ仁王像 菜々

街炎暑靴に吸い付くアスファルト ぼんこ

寄り道す炎暑の街の深庇 たか子

炎暑中百寿の葬に参じけり こすもす

ビル街の路地に迷ひし炎暑かな わかば

WEB句会みのる選・二〇一九年八月一日